

生産性向上への取り組みとその目的

2026年3月9日
高齢者複合施設四葉 安城寺
施設長 上西 弘晃



01.グループ・施設概要

02.活動の背景と概要

03.活動内容

04.まとめ

05.最後に



グループ・施設概要

chapter



グループ概要



グループホーム 4事業所

介護付有料老人ホーム 3事業所

地域密着型特別養護老人ホーム 1事業所

ショートステイ 1事業所

総定員数

217名





健康

すべての人々の健康で心豊かな生活文化の向上を目指します。

Health

愛情

すべての人々の心豊かな愛情で、より良いサービスの提供を目指します。

Love

幸福

すべての人々の幸福を思い、常に相手の立場に立った心と行動を目指します。

Happy

希望

社会に貢献し、社会の信頼を得て発展する希望ある企業を目指します。

Hope





2004年
グループホーム四葉のクローバー 開設
株式会社ベターライフ・U



2005年
グループホーム四ッ葉 開設
株式会社四ッ葉



2017年
高齢者複合施設 四葉 開設
株式会社四ッ葉



2011年
介護付有料老人ホーム四葉 開設
株式会社四ッ葉



2023年
高齢者複合施設 四葉 安城寺 開設
社会福祉法人みどり会



2025年
トータルケアサポート花みずき 運営開始
有限会社オリエンタルシルバーホーム

今回の取り組みを行った施設



施設概要



種別：特別養護老人ホーム(29床)
ショートステイ(10床)



開設日：2023年5月16日



住所：松山市安城寺町497番地



高齢者複合施設四葉 安城寺



活動の背景と概要

chapter



課題は多々あるものの、情報共有に関する課題は早急に解決する必要があると感じていた。伴走支援を好機と捉え、介護テクノロジー機器を用いて解決できないか考えた。





業務の中断

従来は固定電話とPHSで内線や外線の取次ぎを行っていた。目の前のケアが中断されたり、そもそも電話に出られないことが多かった。結果、対象者を探して館内を走りまわったり、内線の信頼性が薄れたりしている状況であった。



アナログな情報伝達

メモ書きや口頭による情報伝達が多く、伝わるまでにタイムラグがあったり、情報の抜け漏れが多かった。デスクには多くの付箋が貼られ、何が重要な情報か分からない状況であった。結果、ご入居者のケアに影響を及ぼしたり、施設全体の周知事項が共有されていないことがあった。



朝礼による時間圧迫

情報共有のための全体朝礼が、日々の業務時間を圧迫していた。顔を合わせられることは利点だが、全員にとって必要な情報は少なく(特定のユニットの話等)、朝礼が本当に必要なものか多くの職員が疑問に思っていた。



02.活動の背景と目的

活動の概要



以前から導入していた機器



ケア記録支援ソフト
**すぐろく
Tablet**

- ✓少ないタッチで簡単入力
- ✓介護現場の記録業務をサポート

タブレット環境でのすぐろく tablet

MeLL+

医療・介護連携サービス メルタス

MeLL+

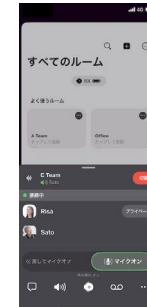


眠りスキャン/眠りスキャンeye

今回新たに導入した機器



iPhone



BONX WORK



骨伝導インカム



ケア記録支援ソフト
**すぐろく
Tablet**

- ✓少ないタッチで簡単入力
- ✓介護現場の記録業務をサポート

iPhone環境でのすぐろく tablet



「インカムとiPhoneの導入による コミュニケーション改革」

全職員(一部を除く)にiPhoneとインカムを配備。

全職員が常時繋がっている状況。
話したいときに話せる環境。



それぞれのiPhoneでいつでも記録が可能。
眠りスキャンや施設のグループウェア、研修までiPhone上で完結できる。



活動内容

chapter



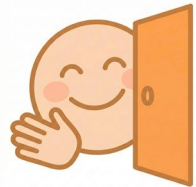
03.活動内容

活動内容：計画(Plan) インカムの導入に向けて



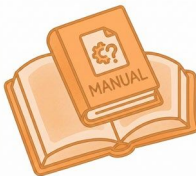
入念な機器選定

勤務状況を考慮し入念な事前調査と機器選定を実施。デモ機も複数レンタルを行った。どのような機材をどのように設置し、どのように活用するかまでを綿密に想定。



柔軟なルール設計

最初から厳しいルールで縛るのではなく、「まずは触ってみる。使ってみる。間違っても全く問題ない」という心理的ハードルを下げる運用方針を徹底する。



マニュアルの整備

図表等を多用し、誰が見ても直感的に使用できるようなマニュアルを整備。研修等は実施するも、自分から触れてみる、周囲と教え合うという意識を醸成する。



活動内容：実施(Do) 写真を用いたマニュアル作成



使用の狙い

社内のコミュニケーション活性化と、内線が繋がらないまたは繋がるまでに時間がかかるといった問題を解決するためにインカムを導入します。また、一人一台iPhoneを所持することで以下のようなメリットを想定しています。

- ・iPhone上ですぐらくを開くことができるため、スキマ時間で記録ができる
- ・iPhone上でMeLL+を開くことができるため、施設内の共有事項をより簡単に周知・徹底することができる
- ・研修等の動画をiPhone上でも視聴が可能となる

2

01 使用方法

出社したら、自分の勤務に合った機材を手に取ります。

1Fにある機材

すずらん早・日・遅
うめ早・日・遅
相談員
看護1・3
1Fフリー

2Fにある機材

さくら早・日・遅
もみじ早・日・遅
ケアマネ
看護2
2Fフリー

1F勤務の看護師は「看護1」、2F勤務の看護師は「看護2」
3人出勤の場合は3人目が「看護3」の使用を想定
フリーは誰でも使用可能分として

3

02 使用方法

インカムとiPhoneのBluetooth接続確認を行う



① iPhoneのホーム画面にある設定を押す



② 赤線部分のBluetoothを押す



③ iPhone上で機器が未接続となっている場合 iPhone画面の緑線の部分を押し、その後にイヤホン側の+ボタン(青い四角の部分)を長押しすることで接続される
正しく接続された場合は未接続が接続に変わる

4

誰が見ても分かりやすいマニュアル作成を心がける

03 使用方法

インカムのアプリ(BONX)画面を開く



① iPhoneのホーム画面にあるBONX WORK(赤い四角)を押す

② このような画面が開かれるため 全てのルームボタンを押す

→職種によりルームの名称が異なりますが、ルームの数はどの職種でも5つで固定



③ このように全てのルームが黒く表示されるようになる

→この状態は全てのルームの会話が聞こえるものの、自分が発した発言も全てのルームに聞こえる状態を意味する

5

04 使用方法

インカムのアプリ(BONX)画面を開く



① 黄色く塗った部分の白いボタンを押す
これで通常所属するルーム以外には自分の声は聞こえない状態となる(いわゆるミュート状態)

② もし看護職員に話をしたい場合、1F職員⇔看護職員の白いボタン(黄色く塗った部分)を押す
この写真の場合は、通常所属するルームと看護職員に自分の声が聞こえる状態

その他、事務所と話したい場合は1F職員⇔事務所の白いボタンを押す

会話が終了した場合は①の状態に戻す



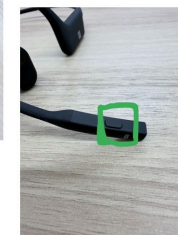
③ 全体申し送り用は全員が所属するルームのため、今後朝礼や全体への通達事項の際に使用を想定している

→全員が概ね使用できるようになった段階で、集合朝礼を廃止しインカムで実施予定

6

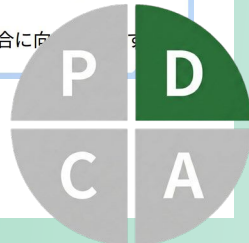
05 使用方法

実際の話し方



イヤホンのマイクの先端にボタン(緑色の四角部分)がある
話し方は以下2通りだが、慣れるまでは基本的に①の話し方が望ましい

- ① 話す間はボタンを押したままにする
- ② 一度ボタンを押してすぐ離す
伝達事項を話す
終了後もう一度ボタンを押してすぐ離す
→長時間話す場合に向



活動内容：実施(Do) とにかく使ってみる



写真のように機器を設置
とにかくiPhoneを肩にかけ、インカムを耳に着用し
マイクで話してみることに

難しいことは考えず、まずは機器に慣れることから



活動内容：ふりかえり(Check)



うまくいった点(成果)

- ◆「1対多」の瞬時な連携により、情報の漏れと人を探す時間が激減。
- ◆iPhoneを用いた記録入力により、スキマ時間の有効活用が可能に。他社の入力を待つ時間が0に。
- ◆いつでも眠りスキヤンの情報が手元で確認でき、見守りの強度が向上。
- ◆いつでもグループウェアを確認でき、施設の周知事項や回覧事項の徹底が容易にかつ誰でも発信できるように。

うまくいかなかった点(課題)

- ◆ルーム機能の切替忘れやマイクボタンの押し忘れによる「独り言」の発生。
- ◆気恥ずかしさ等でまだ十分に活用しきれていない職員の存在。
- ◆直接伝えた方が早いという思いから、インカムを用いず走り回る職員の存在。
- ◆文章及び口頭において、誰もが理解できる「簡潔な申し送りスキル」の必要性。インカムで朝礼を行うにあたり、冗長になってしまうことが多い。





業務の中断

従来は固定電話とDHCで内線
や
目
そ
と
か
た
か
つ
た。
結果、対象者を探して館内を
走りまわったり、内線の信頼
性が薄れたりしている状況で
あった。

課題解決



アナログな情報伝達

メモ書きや口頭による情報伝
達
し
て
い
る
情
報
は
、
レ
ス
ポ
ン
ズ
に
は
多
く
の
付
箋
が
知
れ
、
何
が
重
要
な
情
報
か
分
か
ら
な
い
状
況
で
あ
っ
た。
結果、ご入居者のケアに影響
を及ぼしたり、施設全体の周
知事項が共有されていないこ
とがあった。

課題解決



朝礼による時間圧迫

情報共有のための全体朝礼が、
日
た
り
利
便
な
情
報
は
少
な
く
(特
定
の
ユ
ー
ツ
ト
の
話
等)
、
朝
礼
が
本
当
に
必
要
な
も
の
か
多
く
の
職
員
が
疑
問
に
思
っ
て
い
た。

5割解決





朝礼による時間圧迫

情報共有のための全体朝礼が、日々の業務時間を圧迫していた。顔を合わせられることは利点だが、全員にとって必要な情報は少なく(特定のユニットの話等)、朝礼が本当に必要なものか多くの職員が疑問に思っていた。

現状5割解決

定量的な視点

毎朝の朝礼を10分と仮定する
8名が参加したとすると、1日当たり80分
年間で約486.7時間の削減効果
時給1,100円換算で535,370円の費用軽減

本補助金の自己負担分は2,362,880円
およそ4年5ヶ月で回収可能な計算
(あくまで朝礼に係るコストの計算であり、本来のインカムの機能等を考慮するとより早いペースで投資対効果が得られると想定)

上記の点からも早期に課題を解決する必要がある



活動の目的：見直し(Action)

<直近の改善>

インカムの通話、朝礼のルール等を再度マニュアル化し運用を徹底する。計画段階と異なり、比較的ツールに馴染んでいる今だからこそ、使用方法を固める必要がある。ただし「ルール変更は柔軟に行う」点は変わらない。



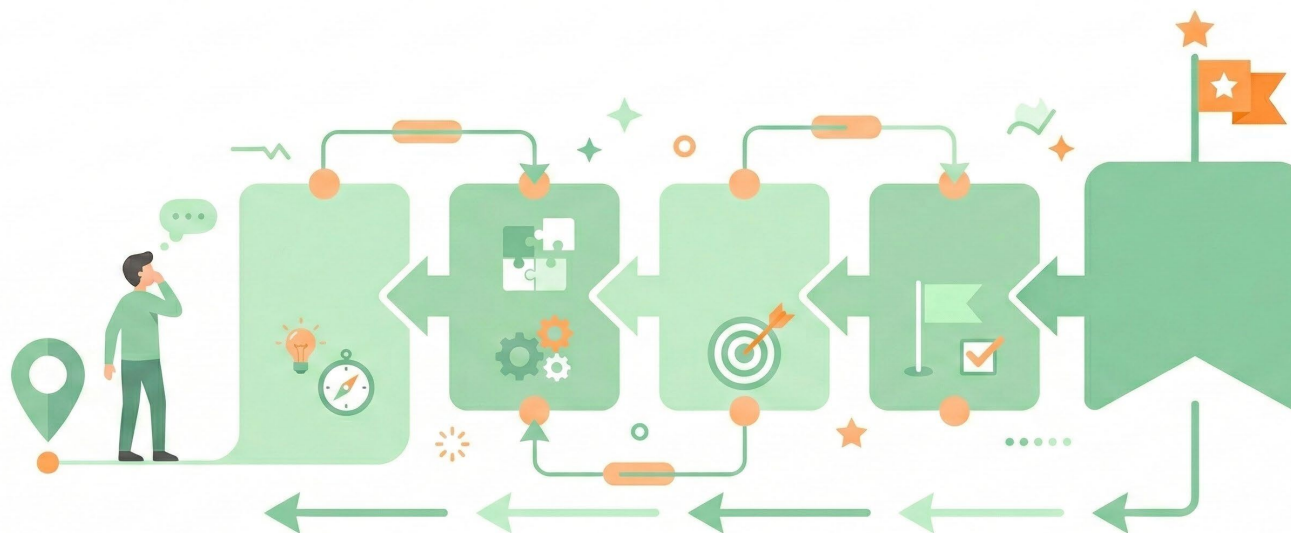
<今後の方向性>

全体ミーティング等で「申し送りの時間がこれだけ短縮できた」といった具体的な成果を共有し、成功体験を積む。それが職員の安心と協力体制を引き出すことに繋がり、今後の機器導入にも大きなメリットとなる。



まとめ：逆算して考える

②機器導入後は、課題解決に向かって「とにかくやってみる」ことを最重要視する。時にはレジスタンと戦う必要もあるが、全員の声を聞き一緒に成功体験を積むことで次の取り組みの味方になる。この段階は声を聞き改善を重ねることが最も大切。



①機器導入前はこういった課題を解決したいのか、何がしたいのかを明確にする。そこから逆算したうえで機器を選定する。重ねてになるが、課題が明確ならばこの段階ではトップダウンで機器選定を行っても問題ないとする。



まとめ：課題解決のその先、生産性向上の本質

<ケアの質の向上>

効率化によって生まれた時間をご入居者と向き合う時間へ変え、ケアの質を次のステージへ高める。

課題が消えることはない。テクノロジー機器の活用を継続しながら、課題に向き合い続ける。ただし、一つの課題が解決する(生産性が向上する)毎に還元できる何かがあるはず。



<心のゆとり>

情報共有の「漏れ」や「不安」を取り除き、職員の心理的負担を軽減する。安心して本来の業務へ集中できる環境を整える。



当グループは、効率化した時間を『職員へ還元』することが「生産性向上」の真のゴールだと考えています

従来の勤務

8時間勤務 + 1時間休憩

9日 × 12ヶ月 = 108日 (+ 誕生日休暇)

年間休日109日

2026年1月より

勤務時間は変わらず

10日 × 11ヶ月 = 110日

9日 × 1ヶ月 = 9日 (+ 誕生日休暇)

年間休日120日

※試験的に運用開始

グループ全体への還元を目指して、好事例をどんどん横展開していきます



機器の導入をゴールとせず、“本質”を見失うことなく
より良い事業所となるべく邁進します。

本日はご清聴いただきありがとうございました。
ご質問等がございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。
是非、情報交換しましょう！

お問い合わせ先

愛媛県松山市安城寺町497番地

社会福祉法人みどり会 上西 弘晃まで

TEL : 089-978-1165

Mail : midorikai@yotsuba-ehime.com

